



IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



2023年6月

ISSUE #38



2023年に対面開催されたIRPA理事会。欠席： : Chris Clement氏、Joseph Amoako氏

目次

会長のブログ	- 2
IRPA YGN Network 動画コンテスト	- 4
IRPAモントリオール基金：若手専門家の支援	- 5
メンタリングに関する新しいIRPAタスクグループ	- 6
第13回クロアチア放射線防護学会シンポジウム	- 7
今後の予定	- 9

翻訳：藤通 有希、佐々木 道也、監修：藤田 博喜

この”IRPA会報”の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Yuki Fujimichi, Michiya Sasaki and reviewed by Hiroki Fujita.

This Japanese translation of ”IRPA Bulletin” is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

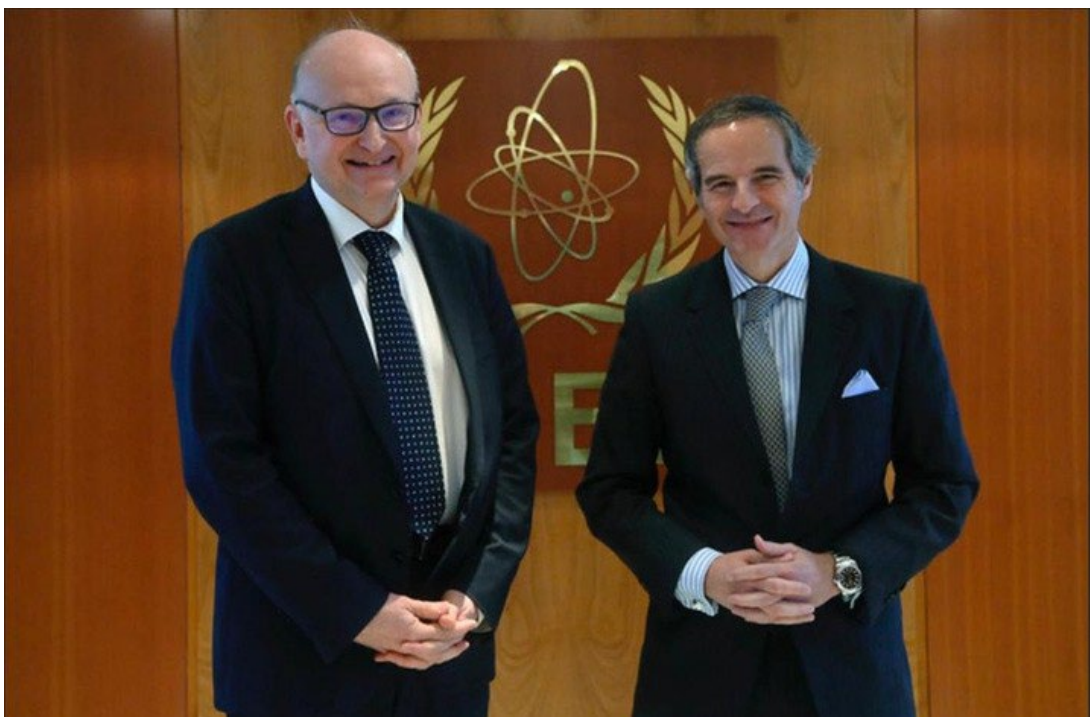
この4月、私はIAEA事務局長Rafael Mariano Grossi氏とお会いする機会を得ました。この会談で、私はIRPAが行っている活動について話し合い、医療における放射線安全文化に関するイニシアチブなど、IAEAが関心を持つトピックについて情報を共有しました。

IRPAとIAEAは長年にわたり協力関係を築いてきましたが、このたび両機関が覚書（MoU, Memorandum of Understanding）に署名することで合意し、その関係はさらに強固なものになろうとしています。この文書では、IRPAとIAEAが放射線防護と放射線安全の分野でどのように協力できるかを説明しています。その一例として、IRPAがIAEAの新しい「"Rays of Hope": 希望の光」イニシアティブ（RoH）の下で実施される活動をどのように支援できるかが挙げられます。



特にアフリカでは、がんによってあまりにも多くの人々が命を落としています。Rays of Hopeは、放射線治療サービスの確立と拡大を支援することで、この現状を変えようとしています。特に、放射線治療の施設がまったくない加盟国に焦点を当てています。

しかし、Rays of Hopeのイニシアチブは、必要な機器の調達と同時に、職員の訓練と支援、地域の組織が手を携えて初めて成功します。医療における安全文化の構築には、純粋な放射線防護や安全性だけでなく、ベストプラクティスや人的要因も考慮する組織が必要です。さらに、安全文化は、協力、品質、安全を奨励する地域環境なしには発展しません。



IRPA会長Bernard Le Guen氏とIAEA事務局長Rafael Grossi氏

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

また、新しい機器のエラーや不適切な使用を避けるために、新技術の導入をサポートすることも重要です。そのようなエラーは、リスクを増大させ、患者やスタッフに危害をもたらす可能性があります。私が忘れられないこのような事件の一例は、**2006年**にフランスで発生したエピナル事件です。この事件では、前立腺がん用の新しい装置で治療を受けていた**430人**の患者が、人為的ミスから生じた誤った線量計算のために過剰な被ばくを受けました。

私のキャリアパスにより、医療と原子力事業者のバックグラウンドを融合させた二重の文化を発展させ、**2008年**以来、**IRPA**での職務に生かしています。私が放射線安全文化イニシアチブを立ち上げ、発展させたのは、**2008年**にブエノスアイレスで開催された**IRPA**の大会のときでした。私の考えは単純で、医療専門職が原子力産業で得た経験から、グッドプラクティスを超えた利益を得られるようにすることでした。これは、長期的にこのアプローチを支える文化を根付かせることを視野に入れ、専門家が患者と日常的に接する際の行動に反映させるものです。

医療における安全文化の発展と維持は、まさに**IRPA**が**Rays of Hope**イニシアチブに提供できる支援です。先日のアフリカ大会とラテンアメリカ大会での**IRPA**と**IAEA**の合同セッションでの議論では、依然として重要な作業が必要であることが示されましたが、**IRPA**はこれらの分野で支援を提供できる独自の立場にあります。私たちは専門家の素晴らしいネットワークを持つ組織であり、現地での支援、放射線安全文化に関する研修、ピアレビューへの参加などを提供できると確信しています。

私たちは現在、覚書の起草の最終段階に入っており、この夏以降に署名入りの最終文書が完成したという朗報をお伝えできることを願っています！



Bernard氏とAnalía Cordoba氏（**ICRP第4委員会**、アルゼンチン放射線防護学会）



シラクサ**NORM**会議で講演する**Bernard氏**



IRPA YGN動画コンテスト

2021年と2022年、[IRPA Young Generation Network](#) (IRPA YGN) はコンテストを実施し、若手専門家が各国の放射線防護学会に参加するメリットについてのショートムービーを各国のYGNに制作してもらいました。応募作品は、IRPA執行理事会を中心とする5名の審査員によって評価されました。

オーストリア (Young Scientists & Professionals部門) が1位を獲得し、僅差でスペイン (J-SEPR) からの応募作品が続きました。フランス (Young Club) と中国の応募作品がそれぞれ3位と4位にランクインしました。

優勝したYGNには2024年に開催される[IRPA16国際大会](#)への若手専門家2名分の参加費をカバーする賞品が贈られます。また、参加したYGN全員にも賞品が贈られます。

[YouTubeのIRPAチャンネル](#)、または以下の画像をクリックすると、4つの応募作品すべてを見ることができます。



モントリオール基金

モントリオール基金は、1992年にカナダのモントリオールで開催されたIRPA-8国際会議の収益金をもとに、カナダ放射線防護協会によって1995年に創設されました。この基金は、IRPAが、IRPA大会への学生や若手専門家（できれば発展途上国やIRPA関連学会を持たない国からの参加者）の参加を支援することで、世界の放射線防護を強化するために不可欠なプログラムです。IRPAは、次のような基準で個人を選考しています。

[モントリオール基金委員会の規約](#)

モントリオール基金は、関連学会やその他の関係者からの寄付によって支えられています。2022年は、下記の学会からモントリオール基金へのご寄付をいただきました。IRPAは、皆様のご支援に大変感謝しております！

- 放射線防護学会（英国）
- オーストラリア放射線防護学会 (ARPS)
- イタリア放射線防護学会（Associazione Italiana di Radioprotezione, AIRP）

モントリオール基金は、2022年のIRPA地域大会に参加する19名を支援しました。残念ながら、提供された支援は2022年度の拠出額を約9000米ドル近く上回りました。

今年、モントリオール基金へのご協力を強くお願いいたします。皆様のご支援は、2024年に開催される[IRPA16](#)のような、他の方法では参加できないかもしれない方々の将来のIRPA大会への参加を増やすことにつながります。



**THE SOCIETY FOR
RADIOLOGICAL PROTECTION**



メンタリングに関するIRPA TG

SYLVAIN ANDRESZ

2022年6月にブダペストで開催されたIRPA大会中に行われたIRPA理事会（EC）で、Kevin Nelson氏（HPS、IRPA執行理事）は、メンターシップに関するタスクグループ（TG）の創設を提起しました。彼は特に、経験豊富で上級の放射線防護専門家から若い世代に知識や経験をどのように伝えるか、また、世代間にギャップ（技術的なものであれ、思想的なものであれ）が存在するかどうかを懸念していました。

Nelson博士は、IRPA Young Generation Network (YGN)がこのTGの運営を主導することを提案しました。ECはこれを支持し、TGは2022年7月のIRPA YGNリーダーシップ委員会で正式に発足しました。その直後の2022年9月には、グループの目標と枠組みを明確にするためのブレインストーミング会合が行われました。

TGの目的は、IRPA ECが現在検討中の規約に記載されており、以下の目的が含まれます：

- ・メンタリングに関するトピックを調査し、IRPA加盟学会（AS）内で実施されているメンタリングの実例について説明する。2022年11月、すべての加盟学会に調査票を送付し、メンタリング・プログラムがあるかどうかを調査した。実施されている学会には、その実施方法の詳細と、メンタリングの経験に関するフィードバックを求めた。AS会員の約半数が回答した（26件の回答）。5つのASがメンタリング・プログラムを実施しており、3つのASがメンタリング・プログラムを実施しているが、開始したばかりか休止状態であった。9つのASはメンタリング・プログラムを実施したいと考えているが、6つのASは必要ないとのことであった。
- ・既存のメンターシップ・プログラムを構築または強化するために使用できる戦略を策定し、その結果をIRPA ガイダンス文書として公表する。このガイダンス文書は、調査結果、IRPA ASの経験、TGメンバーの経験、メンタリングに関する文献に基づくものである。また、組織の洞察や指標（実施、成功など）に関する議論も含まれる。

調査結果と次のステップは、[7月13日のIRPAウェビナー](#)で発表され、TGはこの取り組みを継続するための会議をこの夏に計画しています。

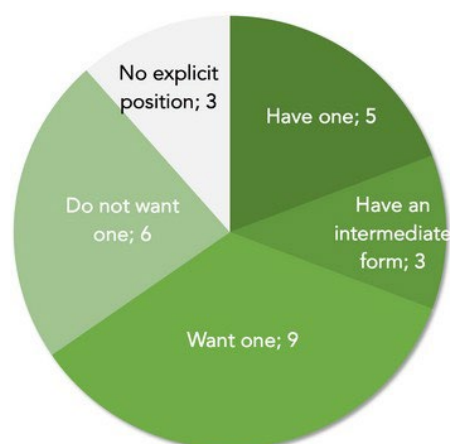


図1：YGN調査に回答したIRPA関連学会におけるメンタリング・プログラムの実施状況の内訳



第13回クロアチア放射線防護学会シンポジウムと DR. MARIA RANOGAJEC-KOMORの名誉会員選挙

Luka Pavelić、Branko Petrinec、Ivana Coho

クロアチア放射線防護学会(CRPA)は、2023年4月18日から21日までクロアチアのポレチで、海外からの参加者を迎えての第13回シンポジウムを成功裏に開催しました。このシンポジウムは、医学研究・産業保健研究所 (IMI)、ルジェル・ボシュコヴィッチ研究所 (IRB)、クロアチア医学物理学学会 (HDMF) の共催で、放射線防護に関する新しい情報を交換し、最新の知識を発表することを目的として開催されました。このイベントは、クルシュコ原子力発電所、IMI、IRB、内務省、科学教育省が後援しました。メインスポンサーとしてLKB Vertriebs GmbH、シルバースポンサーとしてRadosys Dosimetric Microscopyとクルシュコ原子力発電所、ブロンズスポンサーとしてDositracker Ltd.、Mjerne tehnologije d.o.o.、Jasika d.o.o.、Institute for Medical Research and Occupational Healthが名を連ねました。



シンポジウムには、国内の科学、研究、政府、学術、医療、企業の各機関から71名、ハンガリー、スロベニア、セルビア、オーストリアからの9名を含む80名が参加しました。科学プログラムは、放射線科学、核の脅威、放射線線量測定、放射線の生物学的影響、住民の放射線被ばく、医療における放射線防護、放射線生態学、ラドン、非電離放射線、測定器と測定技術など10項目に及びました。Saša Medaković博士は、"クルシュコ原子力発電所の最初の40年"について招待講演を行いました。

第13回クロアチア放射線防護学会シンポジウムと DR. MARIA RANOGAJEC-KOMORの名誉会員選挙

シンポジウムに先立ち、65のアブストラクトが提出され、Branko Petrinec、Luka Pavelić、Jelena Popić、Nevenka Kopjarが編集を、Silvija KobeščakとPetra Tagliarettiが技術編集を担当したアブストラクト集（PDF形式）に掲載されました。ISSN番号は、CRPAの定期的な刊行物の一部として、ザグレブ国立・大学図書館のISSN事務局によって付与されます。

シンポジウムでは、最も優秀な口頭発表とポスターが選ばれました。Luka Pasariček氏の、PHITSソフトウェアパッケージと計算方法における「idelt」パラメータが放射線治療における一次陽子の線形エネルギー移動に与える影響に関する口頭発表が最優秀賞を受賞した。ポスター部門では、Nora Miljanić氏の乾燥・冷凍されたマッシュルーム中のCs-137放射能濃度に関するポスターが最優秀賞を受賞した。

CRPA総会では、前年度の学会活動報告および財務諸表、2023年および2024年の事業計画および財務計画が承認されました。また、CRPA規約の変更が承認され、放射線防護への多大な貢献と本学会の評判を高めたMária Ranogajec-Komor博士が本学会の名誉会員として表彰されました。



今後のイベント

The purpose of this Young Generation Network (YGN) Workshop is to encourage the active engagement of young professionals with Radiation Protection and promote their personal and social interaction.

INTERNATIONAL YGN WORKSHOP ON CHALLENGES OF RADIATION PROTECTION 2023

Organized by:

Japan Health Physics Society (JHPS)

Young Researcher's Association of JHPS (JHPS YRA)

Co-organized by:

International Radiation Protection Association (IRPA)

IRPA Young Generation Network (IRPA YGN)

Supported by:

International Commission on Radiological Protection (ICRP)

Japanese Radiation Research Society (JRRS)

November 8, 2023

**Grand Nikko Tokyo Daiba
TOKYO, JAPAN**

Free of charge

if you join ICRP2023, JHPS annual meeting,
or JRRS annual meeting.

You can join the workshop if you are:

40 years old or younger;

OR

defined as a "young" researcher
in your national association / society.

Registration here!



Program		
14:00-15:30	✓	Introduction of YGN activity in each country
	✓	Group work (1)
16:00-17:30	✓	Group work (2)

Further details will be announced later.

Pre-registration is preferable

Contact: jhpsygn2023@gmail.com



今後のイベント



IAEAは、より多くの女性が原子力科学の分野で素晴らしいキャリアを築けるよう、**Marie Skłodowska-Curie**奨学金プログラムの新ラウンドを開始しています。

奨学金は利用可能な資金に応じて毎年**100名以上**の女子学生に授与されています。学生の選考にあたっては、資格の要件や他の基準に加え、地理的および研究分野の多様性が考慮されます。選ばれた学生には、修士課程の授業料として最高**2万ユーロ**、生活費として最高**2万ユーロ**が授与されます。また、修士課程修了後、学生には**IAEA**、そのパートナー機関、または産業界で最長**12か月**間のインターンシップを行う機会も与えられます。さらに、学生には、さまざまな教育的、専門的、ネットワーク形成のためのイベントに参加する機会も提供されています。

2020年の発足以来、**MSCFP**には**1563件**の応募があり、世界**65カ国**で学ぶ**110の国籍**の**360人**の学生が選ばれました。**2022年末**までに、すでに**100人**の学生が**MSCFP**の支援を受けて修士課程を修了し、**IAEA**が推奨するインターンシップへの参加、原子力分野での博士号取得や就職を目指している。このプログラムは、より多くの女性が原子力関連分野で高度な教育を受ける機会を確保できるよう、年々拡大していく予定です。

次回の募集は**2023年7月中旬**に開始され、**2023年9月末**までに締め切られる予定です。プログラムの詳細および応募資格については、リンクをご覧ください：[IAEA. Marie Skłodowska-Curie奨学金プログラム](#) | [IAEA](#)および[応募者向け情報](#) | [IAEA](#)をご覧ください。



今後のイベント

2022年2月に初めて開催したIRPAウェビナーは大成功を収め、その後も順調に開催を続けています。そしてこのたび、第3回IRPA国際ウェビナーを2023年7月13日（木）午後1時～午後3時（CEST、CEDT）に開催することになりました。

（第1回ウェビナーを見逃した方も、まだ間に合います。 [こちらからどうぞ！](#)）



このウェビナーでは、前回に引き続き、IRPAタスクグループに関するニュースを中心に取り上げます。7月のセッションでは、3つのグループからプレゼンテーションが行われます：

- 放射線における女性（WiR）タスクグループ
- 組織反応タスクグループ
- ヤング・ジェネレーション・ネットワーク（YGN）。

このウェビナーは保健物理学会(HPS)の協力を得て開催されます。ご支援に感謝いたします。

参加するには、[こちらをクリック](#)するか、以下のリンクから登録してください：

https://burkinc.zoom.us/webinar/register/WN_8ZPDAYmbTeObUJbsPHI6KQ

ニュースをお寄せください！



共有したいニュースがありますか？cop@irpa.net までお送りください。IRPAニュースやIRPA会報でご紹介します。会報の記事は通常200～300字と画像です。

ソサエティ・スポットライトでは、関連学会からの最新情報を随時募集しています。あなたの学会の近況をお知らせください。会合、会議、一般的なイベント、または良いニュースはいつでも歓迎です！

IRPA出版委員会

IRPA Communications Officer: Dave Niven

Bulletin Editors: Dave Niven

Associate Societies Liaison: Michèle Légaré

Website Managers: Dave Niven & Chris Malcolmson;

Social Media Managers: Sven Nagels & Chris Malcolmson;

Media Reviewers: Sven Nagels, Young-Khi Lim & Hiroki Fujita;

Proceedings Advisor: Haruyuki Ogino

追悼

大変残念なことです、**Adelene Gaw**氏の訃報をお伝えします。**Adelene**は、昨年末までIRPA会報の関連学会連絡担当を務めていました。彼女は長年にわたりIRPAとカナダ放射線防護学会（CRPA）の重要なメンバーとして、複数の委員会や作業部会で活躍し、カナダ国内および国際的に放射線安全を推進してきました。

Adeleneは、彼女を知り、一緒に働くことができたすべての人々によって、愛情をもって思い出されることでしょう。彼女のご家族、ご友人、同僚に心からお悔やみを申し上げます。



**2019年5月、CRPAカンファレンス
現地組織委員会の仲間たちと
Adelene（右端）。**

